

論文タイトル：Association of total tooth loss with smoking, drinking alcohol and nutrition in elderly Japanese: analysis of national database.

論文著者：Hanioka T, 他

論文掲載誌：Gerodontology. 24: 87-92.

食事を楽しむためには、健康な歯を保つことが不可欠です。歯の健康に悪影響を与える要因の一つとして、喫煙があります。この研究では、1999 年の国民栄養調査と歯科疾患実態調査の両方に参加した 60 歳以上の日本人 2,122 名（男性 903 名、女性 1,219 名）を対象として、喫煙状況と歯の喪失（全歯喪失）との関連を調べています。

調査方法

調査時の喫煙状況に応じて、対象者は「現在喫煙者」、「前喫煙者」、「非喫煙者」のいずれかに分類されました。ここでの「非喫煙者」は、“全く喫煙経験のない人”または“試煙程度の喫煙経験しかない人”と定義されました。

歯の喪失状況は、歯科検診で調べました。「全歯喪失」は、“第三大臼歯（親知らず）とインプラント以外の永久歯がすべて喪失している場合”と定義されました。

男女別・喫煙状況別に「全歯喪失」の頻度を比較しました。

結果

非喫煙者に対する前喫煙者の「全歯喪失」オッズ比（95%信頼区間）は、男性で 1.55（0.88-2.74）、女性で 1.17（0.44-3.09）でした（年齢、飲酒習慣、ビタミン C 摂取量、ビタミン E 摂取量、BMI で調整後）。したがって、男女ともに、非喫煙者と前喫煙者では、全歯喪失の頻度に有意な差はありませんでした。

一方、非喫煙者に対する現在喫煙者の「全歯喪失」オッズ比（95%信頼区間）は、男性で 2.24（1.28-3.94）、女性で 2.74（1.46-5.16）でした。したがって、男女ともに、現在喫煙者は非喫煙者よりも全歯喪失の頻度が高いことが示されました。

まとめ

この研究では、現在の喫煙習慣は、永久歯を全て失ってしまうことと関連がある可能性が高いことが示唆されました。